

令和5年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修参加報告

フィールド科学系部門生物生産技術班 田中明良

1. はじめに（目的等）

中国・四国地区国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構の技術職員相当の職員にある者に対して、その業務遂行に必要な基本的、一般的知識及び新たな専門知識、技術等を習得し職員としての資質向上を図るため本研修に参加した。

2. 期間・場所

期間：令和5年8月30日～9月1日

場所：香川大学幸町キャンパス オリーブスクエア2階 多目的ホール

3. 参加者等

国立大学法人・高等専学校の職員 37名

4. 研修内容

講義Ⅰ『地域が生き残るためのアウトリーチ』

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長特任教授 長谷川 修一

講義Ⅱ『2050年のモビリティ社会に必要なもの』

香川大学大学院数学センター センター長 特任教授 佛圓 哲郎

各専門分野に分かれて研修：農学系分野

講義：香川大学農学部附属農場 見学：附属農場、さぬきワイナリー

機関代表者発表 香川高専

香川大学教育学部教授(バリアフリー室長) 坂井 聡

5. まとめと感想

技術職員研修会では農業分野に参加し、香川大学附属農場の取り組みや研究内容を聴講し施設見学を行った。香川大学附属農場では水稲、茶、葡萄、桃、ミカン、野菜、草花、鉢花など年間を通して様々な作物を栽培しており、実習や農場体験を通して農業と生物と人間の関わり方についての理解を深める事を目指していた。また収穫した作物を場内販売だけでなく、道の駅や収穫祭、医学部内の売店販売などを行っており、学内のみならず場外販売も行い地域交流にも力を入れている印象だった。他にも肉牛や豚、食用ウサギなども少数ではあるが飼育しており、作物の収穫残さや食品残さ・剪定枝を堆肥化して資源循環型農場に取り組んでおり環境と調和した農場生産を目指していた。全体講義では各分野の講演があったがどの講演も地域と根強く取り組んでいる内容で、地域・企業・官公庁と連携して課題解決を実践的に取り組み、香川大学が地域と密着した大学であると共に地域の活性化に貢献されている大学だと実感しました。